

ポルトガル月報

2022年7月

(本月報は月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★ポルトガルに熱波が到来、国内各地で火災が発生

【外交】★レベロ・デ・ソウザ大統領、ブラジルを訪問

★レベロ・デ・ソウザ大統領及びポルトガル政府、安倍元首相銃撃事件に関する声明を発表

【経済】★観光産業における雇用状況が改善傾向／★第2四半期経済成長が鈍化

(上記主要ニュースには以下本文にて★が付されている)

内政

★ポルトガルに熱波が到来、国内各地で火災が発生

7月に入りポルトガルは熱波に襲われ、13日にはピニャオンの観測所で47度を記録し、7月の国内最高気温を更新した。7月19日には、保健当局(DGS)が7月7日から18日までの期間で、熱波に起因する死者が1,000人を上回った旨発表した。

気温の上昇及び乾燥に伴う火災発生リスクの上昇に鑑み、政府は7月8日から7月15日までポルトガル大陸部全土に「警戒状態宣言」を発出し、7月11日からは「警戒状態宣言」よりも宣言のレベルが一段階高い「災害状態宣言」に引き上げ、17日まで延長した。同宣言は18日に「警戒状態宣言」へと引き下げられ、19日に終了する予定だったが、21日まで延長された。

国内各地で火災が発生し、政府は農業・食料省は火災の被害を受けた畜産農家に対し飼料確保のための特別補助金を提供する他、地域の被害及び調査が完了次第、農場の生産力回復のための支援を開始する旨決定した。

7月15日には、ポルトガル海洋大気研究所(IPMA)は、2021—22年(21年10月から22年6月)は、1931年以来2004—05年(同期間)に続き、過去二番目に乾燥した季節となった旨発表した。

●インテルカンパス社の世論調査結果—7月

7月19日、インテルカンパス社は国内政党支持に関

する世論調査結果を発表した。物価上昇への対応が続く中、与党・社会党(PS)の支持率は35.1%(前月比0.8ポイント増)に増加し、最大野党・社会民主党(PSD)の支持率は19.8%(同1.9ポイント減)と減少した。PSとPSDの支持率の差は15.3(前月比2.7ポイント増)に拡大した。その他主要政党では、リベラル主導党(IL)及びシェーガ党(CH)、左翼連合(BE)の支持率が増加し、統一民主連合(CDU)及び人と動物と自然の党(PAN)の支持率が減少した。同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

【ポルトガル国内政党支持率推移】※2月~4月数値は未公表

政党	11月	12月	1月	5月	6月	7月
PS	34.7	29.4	29.0	34.5	34.3	35.1
PSD	25.0	22.2	24.1	18.5	21.7	19.8
IL	3.7	5.3	4.6	6.8	6.9	8.5
CH	5.6	7.4	5.8	7.7	8.2	8.3
BE	6.9	5.5	7.0	5.2	5.2	5.4
CDU	4.8	3.7	4.9	3.6	3.2	2.8
PAN	3.9	2.9	3.5	3.6	2.7	2.2
CDS	1.8	1.3	0.9	2.9	2.9	2.0
Livre	0.2	0.7	0.5	1.8	1.2	1.7

■調査期間：7月6~11日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者605人、調査方式：固定及

び携帯電話番号を無作為に抽出、回答率：61.3%統計上の誤差：4.0%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、IL=リベラ
主導党、CH=シェーガ党、BE=左翼連合、CDU=
統一民主連合(ポルトガル共産党(PCP)・緑の党(PEV)、PAN=人と動物と自然の党、CDS=民衆党、
Livre=自由党

外交

★レベロ・デ・ソウザ大統領、ブラジルを訪問

7月2日から4日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領はブラジルを訪問した。ブラジルでは、ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ元大統領、ミシェル・テメル前大統領、フェルナンド・エンリケ・カルドゾ元大統領らと会談した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、リオ・デ・ジャネイロで行われた南大西洋航空横断100周年記念式典及びサンパウロ国際書籍ビエンナーレの開会式にも出席し、リオ・デ・ジャネイロとサンパウロでポルトガル人コミュニティとも歓談した。当初予定されていたジャイル・ボルソナーロ大統領との会談は、ボルソナーロ大統領の都合によりキャンセルとなったものの、レベロ・デ・ソウザ大統領は3日間のブラジル訪問を「非常に上手いき、期待を上回った」と評価した。9月にはブラジルの独立200周年記念式典が実施される予定であり、レベロ・デ・ソウザ大統領は、ボルソナーロ大統領の招待を受け、再度ブラジルを訪問する予定。

★レベロ・デ・ソウザ大統領及びポルトガル政府、安倍元首相銃撃事件に関する声明を発表

7月8日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、7月8日に発生した安倍元首相の銃撃事件に関し、大統領府HP上で声明を発表した。レベロ・デ・ソウザ大統領は「日本の安倍晋三元首相に対する卑劣な暗殺に衝撃を受け、日本国に対し、謹んで哀悼の意を表し、この嘆かわしい暴力の発露を拒否する。」と同事件を非難した。また、ポルトガル政府も同日、政府HP上で「ポルトガル政府は安倍晋三元首相のご遺族及び日本政府に対し、深い哀悼の意を表すると共に、同首相を死に至らしめた過激な暴

力行為を極めて強く非難する。安倍元首相は、民主主義の原則及び日本国民のため、対話を確立したその能力により記憶されるだろう。安倍元首相は首相在任時、2014年に日本の首相としてポルトガルへの公式訪問を行っており、日本の首相のポルトガル訪問は初めてであった。心を痛め悲しみに暮れている最中、ポルトガル政府は日本及び日本国民に対し、深い友情及び連帯を表明する。」と声明を発表した。

●ポルトガル政府、フィンランド及びスウェーデンのNATO加盟議定書の決議を閣議で承認

7月14日、政府は閣議を行い、フィンランド及びスウェーデンのNATO加盟に関する議定書の二つの決議を承認した。同決議は既に共和国議会に提出されており、9月に批准される見込み。カレイラス国防大臣は「ポルトガルはNATO創設メンバーであり、当初より欧州大西洋地域の平和と安定維持のための集団防衛を約束し、NATOの目的を推進する能力がある国であれば、加盟が可能であるとの考えである。両国ともに同基準を満たしている。今回の閣議承認は重要なステップであり、同手続きの完了は今後の国会日程によるものであるが、可能な限り早期に終わることを望む。」と両国への支持及び早期批准に向けた期待を述べた。

●ポルトガル政府、ウクライナへ戦争犯罪に関する専門家チームを派遣

7月17日、政府は、ウクライナで調査が行われている戦争犯罪に関して、可能な限り迅速かつ厳格な対応を支援すべく、国立法医研究所(INMLCF)及び司法警察の専門家チームをウクライナへ派遣する旨発表した。同専門家チームはコーディネーター、医師、捜査官、法学者、情報分析官ら6名から構成されている。サルメント・カストロ法務大臣は「各分野を補完する同専門家チームは、経験及び共同作業における明確な有用性を有している。」と調査における同チームの活躍を期待した。

●ゴメス・クラヴィーニョ外相、ペルーを訪問

7月21日から22日にかけて、ゴメス・クラヴィーニョ

ヨ外務大臣はペルーを訪問した。ゴメス・クラヴィーニョ大臣は21日にペドロ・カスティーリョ大統領と会談し、両国文化及び緊密性の促進に関する取り組みを中心に、良好な二国間関係を確認した。また、22日には、セサル・ランダ外務大臣と会談し、文化及び経済分野における二国間関係、ウクライナ情勢を始めとする国際情勢について意見を交わした。会談後、ゴメス・クラヴィーニョ大臣は「ロシアによるウクライナ侵攻の非難など、意見が収斂する点が多くあった。また、イベロアメリカ会議への我々の参加等、共通のテーマにも話が及んだ。」と同会談の内容を説明した。また、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、ポルトガル企業関係者とも会合を実施し、「ここにはペルー経済で確固たる地位を築いている企業が15社もある。企業関係者は全員、成長の潜在性が高いと述べた。」とポルトガル企業の活動を応援した。

●ゴメス・クラヴィーニョ外相、アルバニア及び北マケドニアを訪問

7月25日、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣はアルバニアのティラナでオルタ・ジャチカ同国外務大臣と会談した。ゴメス・クラヴィーニョ大臣は、会談で二国間関係に加え、アルバニアのEU加盟に向けたポルトガルの取り組みについて説明し、「ポルトガルはアルバニアのEU加盟を強く支持し、アルバニアを加盟国として迎えられることを期待している。ポルトガルはアルバニアのEU加盟を政治的のみならず技術的にも支援することができる。国際関係は最終的には人々の間における関係であるため、人と人との関わり合う機会を作ることが重要である。」とアルバニアのEU加盟を支持し、ジャチカ大臣をポルトガルに招待する意向を示した。

26日には、北マケドニアのスコピエに移動し、ステヴォ・ペンダロフスキ大統領及びディミタル・コヴァチェフスキ首相、ブヤル・オスマニ外務大臣とそれぞれ会談した。ゴメス・クラヴィーニョ大臣は、「7月19日の北マケドニアのEU加盟交渉入りに向けた合意の後、オスマニ大臣の招待を受け北マケドニアを訪問した。我々はこのプロセスを支持しており、二国間関係におい

ても多くの機会があるとみている。」と加盟交渉の開始を祝福した。オスマニ大臣は「友人同士の付き合いに地理的距離は関係ない。会談は二国間関係を強化し、欧州が直面している政治・経済・安全保障の課題について議論することを目的としていた。」と会談の意義を述べた。EUは7月19日からアルバニア及び北マケドニア両国のEU加盟交渉を開始していた。

●EU加盟国、天然ガス使用量削減案に合意

7月26日、EU加盟各国は、ロシアからの天然ガスの供給停止に備え、8月1日から2023年3月までの間、天然ガスの使用量を15%削減する案に合意した。同案では、例外規定が設けられており、ポルトガルは、EU内でのガスパイプライン相互接続が弱い点及び加盟国に対するガス融通が可能である点を理由に削減比率が7%まで減免される対象国となる。

同案は、EU加盟国に対し15%の使用量削減を一律に求めていたが、ポルトガルは上記理由に加え、干ばつによって低下した水力発電量をガス発電により代替しなければならぬ国内事情を理由に、一律での15%削減案に反対していた。コルデイロ環境・気候行動大臣は、「もしポルトガルが他のEU加盟国とガスパイプラインで結ばれていたら、この瞬間、今求められている連帯に更に貢献することができただろう。EUはEUのガスパイプライン接続の問題を早急に取り組むべき議題に含める必要がある。」と、LNGプラントを活用したEU諸国へのガス供給地としてのポルトガルの可能性について言及した。

●カーボベルデ大統領、ポルトガルを公式訪問

7月28日から29日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領は、カーボベルデのジョゼ・マリア・ヌーヴェス大統領の公式訪問を受けた。リスボンで行われた歓迎式典の後、両大統領は夕食を共にした。29日には、ユーロ・アフリカ・フォーラム2022に出席し、カーボベルデ文化センターで行われたレセプションに出席した。ヌーヴェス大統領は「パンデミックの期間、我々が困難に見舞われる中、ポルトガルの支援者としての存在感は際立

っており、偉大な友人であることを認識した。今回の訪問が、両国関係を強化し、更なる次元に達するための新たな道の開拓となることを願っている。将来の世代がこの瞬間行取り組んでいる我々の作業を思い出せるよう、我々はより良い方向に向かう。」と両国関係の緊密さを強調した。

経済

●2022年5月の貿易統計の発表

7月11日、国立統計院（INE）は2022年5月の貿易取引量の変化に関する数値を発表した。5月の貿易取引量は、前年と比較し、輸出が40.6%、輸入が46.4%増加し、石油及び化学製品を除いた数値では、輸出、輸入がそれぞれ35.3%、34.4%と増加した。貿易赤字は、前年同月から9億7,600万ユーロ増加し、24億2,100万ユーロとなった。石油及び化学製品を除いた数値では、前年同月より2億9,600万ユーロ多い、13億ユーロとなった。

●消費者物価指数の増加値が鈍化

7月12日、国立統計院（INE）は6月の消費者物価指数（CPI）を発表した。6月のCPIは8.7%（前月比0.7%増）を記録し、5月に記録した最高値を更新した。特に食料部門及びエネルギー部門においては、需要の急回復及びウクライナ情勢の影響を受け、それぞれ11.9%（前月比0.2%増）及び31.7%（前月比0.6%増）と全体の数値を上回り、エネルギー部門においては、1984年以降最も高い数値となった。食料品及びエネルギーを除いたコアコアCPIは6.0%（前月比0.4%増）とCPIよりも低い数値を記録した。7月29日、INEは7月のCPI速報値も発表し、7月はCPIが9.1%（前月比0.4%増）、コアコアCPIが6.2%（前月比0.2%増）と上半期の平均増加値（CPI：1%、コアコアCPI：0.7%）を下回り、物価上昇が鈍化した。

★観光産業における雇用状況が改善傾向

7月20日、職業安定所（IEFP）は6月の登録失

業者数を発表した。6月の失業者数は28万2,453人となり、前月と比較し1万3,941人（4.7%）減少し、前年同月及びパンデミック前の2019年同月との比較では、それぞれ9万5,419人（25.3%）、1万5,738人（5.3%）減少した。地域別では、北部及びリスボン首都圏が、それぞれ前月から5,327人（4.7%）、4,687人（4.4%）、と大幅に数値を減少させ、前年同月との比較でも、北部が3万3,701人（23.7%）と最多の減少を記録した。部門別では、ホテル及びレストラン・類似部門における減少率が高く、前年と比較し、1万9,548人（45.5%）減少した。

★第2四半期経済成長が鈍化

7月29日、欧州委員会及び欧州統計局はEU及びユーロ圏、EU加盟各国の2022年第2四半期のGDP成長率速報値を発表した。ポルトガルは、第1四半期では個人消費の増加及び観光産業の回復に伴い、2.5%とEU内でも高水準の成長率を記録したものの、第2四半期では民間消費及び投資が鈍化し、第一四半期と比較し-0.2%とマイナス成長を記録した。EU全体では0.6%、ユーロ圏では0.7%の成長率を記録し、EU全体で成長が鈍化した。他方、前年同期との比較では、ポルトガルは6.9%の成長率を記録しており、EU及びユーロ圏平均値よりも高い成長を示した。

【前期比GDP成長率 (%)】

	21年3Q	21年4Q	22年1Q	22年2Q
EU	2.2	0.6	0.6	0.6
ユーロ圏	2.3	0.4	0.5	0.7
ポルトガル	2.7	1.7	2.5	▲0.2

【前年同期比GDP成長率 (%)】

	21年3Q	21年4Q	22年1Q	22年2Q
EU	4.1	5.0	5.5	4.0
ユーロ圏	3.9	4.8	5.4	4.0
ポルトガル	4.4	5.9	11.8	6.9

(了)